

前田利為 春雨に真珠をみた人

目黒区美術館 2021.02.13~03.21



「前田利為（まえだとしなり）」（1885~1942）は、前田家歴代第16代当主（侯爵）で4度にわたる欧州赴任を含む多忙の公務の傍ら、自ら数多くの美術館や美術家のアトリエを訪れて近代美術品を収集したことで知られている。

展覧会名の「春雨に真珠をみた人」とは、画伯「利為」が蜘蛛の巣に宿る雨露を写真に収め、アルバムの台紙に「綾真珠」と記したことに由来するものとされている。

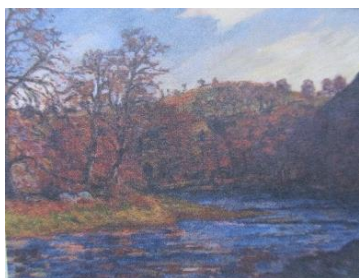
本展は、東京都・目黒区と石川県・金沢市が友好都市として交流を深める契機となった、旧前田家本邸にゆかりのある作品（全て前田育徳会所蔵品）や資料などが展示されて、「利為」の愛した前田家の近代美術コレクションの多様な魅力に触れられる絶好の機会である。

フランソワ・ポンポン 《シロクマ》 上図

「オーギュスト・ロダン」の工房で助手を務めたことがあり、動物をモチーフにした作風で人気を博した。「利為」は1929年にこの作品を注文した。



前田利為 《綾真珠》 1917年 オーギュスト・ルノアール 《アネモネ》
当時の「前田利為」の邸宅を飾った名画の数々（一部を紹介）



アルマン・ギョーマン	《湖水》	1894年	左図
ラファエル・コラン	《庭の隅》	1895年	中図
竹内 栖風	《南支風色》	1926年	右図